

進路だより

平成28年9月2日発行
第4号
福島県立平養護学校進路指導部

進路講話

6月3日、中学部・高等部1・2ブロックの生徒を対象に、進路講話が開催されました。実際に企業や福祉事業所で働く先輩から、仕事の内容や生活の様子、働く心構えなどについてお話をいただくことで、子どもたちはより一層自分の進路について考えを深めることができました。

赤坂嘉子様のお話

プロフィール

平成2年度に本校を卒業。システム開発企業、建築業事務所等3社にて、プログラム修正やデータ入力、伝票整理などの仕事を経験した後、10年前現在の勤務先であるカタログハウスフルフィルメント事業部に就職。在宅ワークの就労形態で勤務している。全国から寄せられたお客様の声（アンケート）をデータ化し、本社に報告する業務を担当している。

本校同窓会会長。

学校を卒業し就職してまず驚いたのが、できると思っていたことが実際にやってみると難しく戸惑うことが多かったということです。あいさつや敬語は学校でも勉強していましたが、相手が前を歩いていたり、忙しそうにしていたりすると、どう声をかけていいか困ってしまうことがありました。やはり、実際にその場になってみないと分からないことだらけなのだ実感しました。

私は今の仕事に就くまでに、3つの会社に勤務しましたが、どの職場でも感じたことは、障がいのある人自身が、「**自分がどんなことができ、どんなことができないのかを分かっていない**」ということです。例えば私の場合ですと、トイレに時間がかかるとか、立ち上がることができても立ったまま作業することは難しいということがあります。でも、少し無理をすれば「できる」とも言えてしまいます。一度やってしまえば、周囲の人はできると受け止めてしまいます。その結果、私はトイレを我慢するようになり、体を壊すという結果を導いてしまいました。

私は、自分には障がいがある分、**人より頑張るのが当たり前**だと思っていました。でも、経験と年齢を重ねることで、頑張らなくてはいけないのは、「**障がいのある体でできる機能を出し切る**」ことではなく、「**自分で体調を管理して、質のよい仕事を継続してできるようにする**」ことなのだと考えられるようになりました。



結婚して専業主婦となって5年が過ぎる頃、障害者就業・生活支援センターの方から、在宅ワークの仕事を紹介してもらいました。通販会社カタログハウスの仕事です。業務内容は、全国から送られてくるお客様からのアンケートをパソコンでタイピングし、データ化してしていく仕事です。

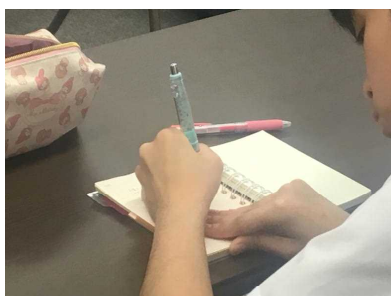
在宅で働く上で気を付けていることは、個人情報を取り扱っているという意識を大切にすることです。そのためパソコンのメンテナンスにも十分気を付けなければいけません。自分の些細な不注意が、お客様に多大なご迷惑をおかけし、会社全体にも大きな損害を与える事態を招いてしまう危険性があるということを、常に自覚していることが求められます。

在宅勤務は、通勤の心配もなく、会社の人に介助を依頼しなくてよいので、障がいのある人にとって魅力のある業務形態であると思います。ただ、時間の融通が利く分、**自分自身を管理する力**が求められます。人前に出ない仕事なので、楽な格好でもいられますが、私は仕事と私生活の区別を付けるためにも、**毎朝身だしなみを整える**よう心掛けています。

また、誰にも会わずに一日が過ぎてしまうので孤独感を味わうこともあります。私は、週に2回サン・アビリティーズで卓球やテニスの活動に参加して**仲間との時間を過ごす**ことで解消するようにしています。そこでは障がいのある人もない人も、年齢や性別も関係なく楽しく交流することができます。一年前から始めた卓球は、少しずつ大会にも出場するようになりました。福島県の大会で一位になり、全国大会に出ることが今の私の夢です。



私は高等部を卒業する頃、「もう障がい者しかいないところは嫌だ」と思っていました。しかし、実際に社会に出てみると障がいのある者同士にしか分からない壁や悩みがたくさんあることに気付きました。そんな時、支えとなったのは、**障がいのある先輩や同級生たちとのつながり**でした。みなさんが社会に出た後、後輩も社会に出て行く日が来ます。そのとき、「僕は会社でこんなことがあったよ」「そんな時はこうしたよ」と話ができるように、失敗を怖がらずにいろいろなことにどんどん挑戦してほしいと思います。自分が失敗したことは、後から自分の大きな力となりますし、失敗を伝えることで誰かの力ともなるのです。



あなたの存在が誰かの支えとなります。ぜひ、同窓会に出席し仲間との絆を大切に持ち続けてほしいと思います。